

平成23年3月17日

足立区立弘道小学校
学校長 田中 泰徳 様

足立区立弘道小学校 開かれた学校づくり協議会

平成22年度 学校関係者評価書

1. 自己評価書全般について

- ・非常にわかりやすい自己評価だった。具体的な目標を立てており、自己評価も適切であった。
- ・課題の部分の解決方法を今後どのようにしていくかが大切である。
- ・授業が分かったという児童が95%とはよい数字だが残りの5%が気になる。その児童への指導を充実させてほしい。
- ・学力をもう少し伸ばしてほしい。また、生き抜く力を育てるためにも体力の向上もしっかり取り組んでほしいと思う。
- ・教員が熱心でよく努力している。勉強以外にもスポーツをはじめ様々な取り組みに力を注いでいる。
- ・あいさつや言葉遣いが気になる場所であり、家庭の問題でもある。あいさつは低学年からの取り組みが重要であり、「あいさつ隊」の児童に期待したい。
- ・子どもたちは適度な競争は基本的に好きである。読書週間やなわとび旬間など、子どもたちが飽きることなく、学力・体力を伸ばせるように、今後も工夫してほしい。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

- ・学校での友人関係のトラブルなど学校だけに解決を求めず、基本は家庭でよく話をしたり、振り返りをさせたりなど、前向きに対応していきたい。
- ・授業へのボランティアなど、協力できる保護者はたくさんいると思う。ぜひ募集してほしい。
- ・外部講師を招いた授業や体験学習に子どもたちはたくさん刺激を受けているようである。回数をもっと増やせるとよいと思う。
- ・地域の者も子どもたちに積極的に声をかけ、顔見知りになり、安全にも注意していきたい。
- ・生活習慣などは、保護者の指導が最重要だと思う。PTAにおいても話し合いをしてほしい。

3. その他

- ・地域での子どもたちのあいさつの様子で学校の楽しさがよくわかる。教員も大変だと思うが、引き続き頑張してほしい。
- ・学力向上、体力向上も重要であるが、根本的な人とのかかわりが一番大切だと思う。そういったことに視点を当てた教育プログラムなどを区全体で導入されないだろうか。
- ・今の子どもたちの内面を大人の目で見抜くのは難しくなっている。見抜く目を養ってほしい。
- ・家庭においては早寝の習慣をつけることが難しい。
- ・学校と家庭の子供に対するかかわりの度合いが不明確になっている。本来家庭で行うべきことを学校が引き受けている状況は大変である。
- ・学校独自の踊りを盆踊りで踊るなど、学校、家庭、地域が一体となって町会・自治会の行事に参画してもらいたい。
- ・校内の清掃が行き届いており、児童もよく指導されている。高く評価したい。